

***第9回「住み続け再生」連続講座の概要記録**

タイトル：泉北ほっとけないネットワークの取り組み

講師：西上孔雄（NPO法人すまいるセンター代表理事）

コメンテーター：近野正男（NPO集合住宅維持管理機構）

司会：秋田悟

日時：12月13日（土）13：30～16：30

場所：大阪産業創造会館5階研修室C（参加者：16名）

●西上さん講演内容

1) 泉北ニュータウンの課題

*概要／入居1967年12月→まち開き47年経過／・開発面積1557ha、3地区16住区

・計画戸数54000戸、人口18万人→現在134千人、58000戸（集合41700、戸建て16400）

***課題**

- ・高齢化：24%、住区により35%・・・高齢化に伴う諸問題
- ・住宅の52%が公的賃貸、昭和40年代建設・・・経年劣化、
- ・住宅の非バリアフリー、近隣センターの空き店舗
⇒・近隣住区が成立しない
- ・70%が「住み続けたい」

2) 榎塚台地区での活動

***榎塚台概要**

- ・駅からバス圏
- ・高齢化32%、空家：公的賃貸・20%、戸建て・5%、近隣センター衰退、買い物難民、
⇒このままだと、ゴーストタウン化、⇒新近隣住区論（交通弱者にとって500mを生活圏に）

*何とかしようと立ち上がった・・・

- ・民、学、産、官・・・自治会・NPO法人、市立大・府立大・など、福祉施設、堺市・大阪府、

3) 事業展開

*泉北NTでの生活を創ろう（泉北スタイル）の提案の一環で以下のような取り組み（ほっとけないネットワーク・国からの助成を受けて⇒新近隣住区）をしつつある（他にも24時間支援、安心居住、食健康など多彩）

- ・府営住宅改修・・・一人暮らし高齢者支援住宅（平成22～24）
- ・目的：ショートステイの代わり、シェルター、来客、
- ・12室、高齢者向け（見守りあり＝24時間）、デイユース（1年程度まで）、
- ・学生の設計参加
- ・空き店舗改修・・・コミュニティレストラン（平成22）
 - ・担い手は主婦＋退職高齢者
 - ・食事、配食、イベント、農産物販売
- ・戸建て空家改修・・・榎塚台の戸建て空家を借りて、多世代住居へ（平成24）
 - ・シェアハウスとして活用・・・

●近野さんのコメント

- ・自分も、すまいるセンターの会員。泉北での活躍は学会でも評価されている。
- ・しかし、今後の継続と拡大という点でどうしたら一般解になるか疑問だ。公営住宅改修もそうだが、戸建ては希望者がなかなかでないのでは？
- ・産、官、学もおのおの弱点があって結束していく上で、難しさもある。

●増永の感想：

今回は、常に千里と比べられ、大阪府南部で日本の幹線の道路や鉄道から外れ、住宅需要の見込めない泉北ニュータウンが対象。このようなハンディキャップを持つ泉北をほっとかないで、何とかいいまちにしようという、理想の旗をかかげ、戦線をおおきく広げて、運動を進める地域のコミュニティ活動のお話であった。課題はあるが、広範な多層な市民団体などをネットワークしつつあり（泉北ほっとけないネットワーク）、ひとつのモデルとしての展開・活躍が楽しみである。講座への参加者16名と少しさびしかった。にもかかわらず後の懇親会は普段と変わらない人数で盛り上がった。

（文責：増永）